

## プロレタリアートの独裁

軽信という伝染病

「同志諸君！ 資本家の反抗は、どうやら粉碎されたいらしい」。

この愉快的なニュースは、われわれが、大臣ペシエホーノフの演説から借用したものである。びっくり仰天するようなニュースだ！「資本家の反抗が粉碎された」とは……

人々はこのような大臣の言葉に聞きいり、このような大臣の言明に拍手をおくっている。軽信病でなくて、なんであろうか？

「プロレタリアートの独裁」でだれよりも自分をおどかし人々をおどかしている。ところが、「プロレタリアートの独裁」という概念は、資本家の反抗を粉碎するということと、どこがちがっているのか？ まったくどこもちがっていない。プロレタリアートの独裁とは、このばあい主役を演じている階級と、独裁と呼ばれる、国家権力の特殊な形態——すなわち、法律や選挙ではなく直接住民のある部分の武装力に依拠する権力の特殊な形態——とを規定する科学的な用語である。

プロレタリアートの独裁の意味と意義は、どこにあるか？ まさに、資本家の反抗を粉碎することにある！ もしロシアで、「資本家の反抗は、どうやら粉碎されたいらしい」といえば、この文句は、ロシアでは「プロレタリアートの独裁が、どうやら実現されたいらしい」というのに、まったく等しい。

「ただ」不幸なことに、われわれのまえには、大臣の空文句以上のなものもない。これは、「利潤を 100 %取りあげてしまおう」というスコベレフの勇ましい絶叫と同じたぐいのものである。これこそ、あの「革命的民主主義的」雄弁の精粹の一つであり、この雄弁は、いまロシア全土をひたし、小ブルジョアジーを酔わせ、人民大衆を墮落させ、彼らを愚鈍にし、軽信という伝染病の細菌をやたらにばらまいているのである。

フランスのある喜劇には、——フランス人は、どうやら、社会主義内閣遊びを他のどの国民よりもりっぱに習得したらしい、——全国各地の選挙人集会で、「社会主義」大臣の公約演説を繰り返す蓄音器が出てくる。市民ペシエホーノフは、「同志諸君、資本家の反抗は、どうやら粉碎されたいらしい」という彼の歴史的な文句を、レコード会社で録音すべきだ、とわれわれは考える。この文句を、世界じゅうのあらゆる国語でひろめることは、非常に好都合であり（資本家にとって）有益であるだろう。彼らはこういっただろう、——そら、見たまえ、ロシアにおけるブルジョアジーと社会主義者との連立内閣の経験のすばらしい成功を！ と。

だが、それでも大臣である市民ペシエホーノフ——ツェレテリやチェルノフといっしょに入閣した現在でも、メンシェヴィキからもエス・エルからも、社会主義者と呼ばれている（1906 年にはメンシェヴィキやエス・エルは、彼を右へ行きすぎた小ブルジョアだとして、彼とはっきり一線を画したのであるが）この市民ペシエホーノフとしては、つぎのような単純な、つつましい質問に答えてもさしつかえないであろう。

——資本家の反抗の粉碎にとりかかるなどということが、われわれに出来るものか！ われわれとしては、労働組合にたいし、あらゆる大政党にたいして資本家の前代未聞の利潤を暴露する仕事、営業上の秘密の廃止という仕事に取りかかるべきではなからうか？

——「プロレタリアートの独裁」（「資本家の反抗を粉砕する」こと）を語ることが、われわれに出来るものか！ むしろ**官金私消の暴露**に取りかかるほうがよいのではなからうか？

もし政府新聞の『ラボーチャヤ・ガゼータ』が報道しているように、石炭の納入価格が革命政府によって**引きあげられる**とすれば、それは、官金私消と同じようなものではなからうか？ 「資本家の反抗が粉砕された」ことを弁じ立てるよりも、せめて週一回でもいいから軍需品納入について、これらの納入品の価格について、銀行の「保証書」その他の文章を發表するほうがよくはないだろうか？

第 25 卷 P58~60 『軽信という伝染病』 『プラウダ』第76号、1917年6月21(8)日

## ポイント

ペシェホーノフは、「同志諸君、資本家の反抗は、どうやら粉砕されたいらしい」という空文句によって、小ブルジョアジーを酔わせ、人民大衆を墮落させ、彼らを愚鈍にし、軽信という伝染病の細菌をロシア全土にやたらにばらまいている

もしロシアで、「資本家の反抗は、どうやら粉砕されたいらしい」といえば、この文句は、ロシアでは「プロレタリアートの独裁が、どうやら実現されたいらしい」というのに、まったく等しい。そして、**プロレタリアートの独裁とは、このばあい主役を演じている階級と、独裁と呼ばれる、国家権力の特殊な形態——すなわち、法律や選挙ではなく直接住民のある部分の武装力に依拠する権力の特殊な形態——とを規定する科学的な用語なのである。**

資本家たちは現在のロシアの政治状況をこういっただろう、——そら、見たまえ、ロシアにおけるブルジョアジーと社会主義者との連立内閣の経験のすばらしい成功を！ と。

「資本家の反抗を粉砕する」ことを語るまえに、むしろ**官金私消の暴露**に取りかかるほうがよいのではなからうか？ 「利潤を 100 %取りあげてしまおう」というスコベレフの勇ましい絶叫のまえに、資本家の前代未聞の利潤を暴露する仕事、営業上の秘密の廃止という仕事に取りかかるべきではなからうか？ そのことが「資本家の反抗を粉砕する」ことに通じるのだから。